



キハダ

中西部太平洋

主な漁業と漁期

まき網(冷凍): 周年(未成魚・成魚)
はえ縄(生鮮): 周年(成魚)

生態

昔は缶詰や魚肉ソーセージの原料でしたが、現在では刺身や寿司ネタなどの生食用にも供給されています。

●分布・回遊

熱帯域から温帯域にかけて広く分布します。夏季には緯度40度近くまで分布しますが、冬季に30度以上に分布することは稀です。

小型魚は、メバチやカツオと混じって群を形成しますが、大型になると他魚種と混じることは多くありません。

標識放流調査の結果では、熱帯域や亜熱帯域において緯度方向及び経度方向にかなりの移動が認められています。

●産卵期・産卵場

水温24～25℃以上の水域で、ほぼ毎日、夜間に産卵することが判明していますが、どの程度連続するかは不明です。

●成長・成熟

成長は1歳で体長50cm程度、2歳で100cm程度、3歳で130cm程度に達します。寿命は7～10と考えられています。

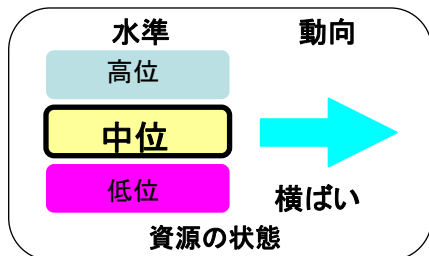
成熟は雌の生物学的最小形は体長60cm程度との報告もありますが、50%成熟するのは105cm程度(3歳)です。



キハダ幼魚(成魚と異なり背鰭と尻鰭は小さい)

漁業・資源動向

【資源】



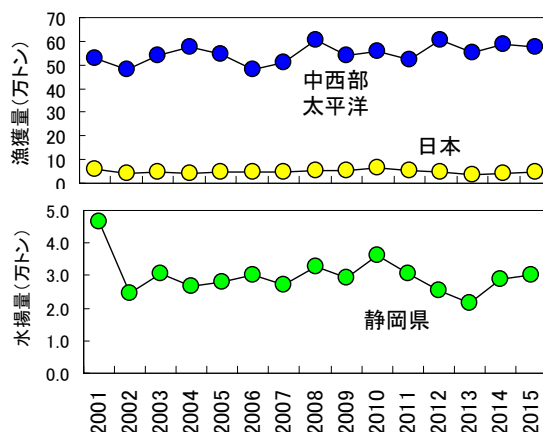
- 1 産卵資源量、性比、年齢別成熟率、一回当たりの産卵量、産卵回数の情報を考慮した産卵可能指数 (Spawning potential) は1990年代から減少傾向にあります。
- 2 漁獲死亡は、若齢魚と親魚で類似しており、1970年から急激に増加し、近年は高いレベルにあると示されました。
- 3 最新の資源評価(2014年)では、現在の資源は過剰漁獲の状態にはなく、乱獲状態にも陥っていないと評価されています。

《国の資源評価へのリンクはこちら》

http://kokushi.fra.go.jp/H28/H28_13.pdf

【漁業】

- 1 2001年以降、太平洋全体では年間47.3～59.2万トン、日本では年間3.6～6.4万トンの漁獲量で推移しています。また、静岡県への水揚量は、2.1～4.7万トンで推移しています。
- 2 主に遠洋のまき網で漁獲されています。



中西部太平洋と日本のキハダの漁獲量の推移(上)と静岡県のキハダの水揚量の推移(下)

担当者の一言: 夏季に静岡県沿岸に小型個体が来遊し、地域によってキメジ、キメ、チャップなどと呼ばれます。

問合せ先

静岡県水産技術研究所資源海洋科 054-627-1817